

令和3年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 有森 真理

「コロナ禍のもと、学ぶ機会を与えていただきありがとうございました。」
「他校の先生方と、久しぶりに話をすることができて、刺激を受けました。」
受講後のアンケートの片隅や提出書類に添えたメモ用紙に、このようなメッセージを寄せてくださった先生方が、今年度は例年にも増して多かったように思います。温かい言葉をいただくたび、倉敷教育センター職員一同元気をいただきました。



新型コロナウイルス感染症予防をしながらの生活が3年目となりました。不登校や問題行動に関する相談件数は増加傾向にあり、長引く状況に心や体の変化を抱えている子どもたちがいることがうかがえます。子どもたちは、感染症そのものへの不安はもちろん、行事の中止や部活動の制限、他者と関わる機会が減少したことによる人間関係を築く上での課題など学校でのストレスや、外出自粛や生活リズムの乱れ、在宅勤務等による家族との距離感の変化など家庭でのストレスを膨らませているように感じます。それらの子どもたちを支えようと、マスクで表情も分からない中、元気のなさや変化をとらえ不安を取り除こうとしたり、なかなか先が見えない中、学びを止めないようにと努力や工夫を続けたりする先生方のストレスはどんなに大きいのかと推測しています。さらに、今年度は、昨年度から引き続き「新しい生活様式」に沿った三密を避ける対応に加え、「人流を抑える」ことが求められました。そのため、教職員の出張や学校内に外部の方を招くことが慎重に判断されました。先生方が、校外でも校内でも、これまでのように研修する機会が得られないことに不安を感じておられることも伝わってきました。

そこで、研修事業では、受講者の「学びを止めない」とこと、受講者どうしが横のつながりを感じることができるようにすることを意識して進めてきました。全講座の半分強を形態変更しなければなりませんでしたが、受講者の真摯な取組、各学校の関係の先生方の御理解と御協力、講師の先生方の臨機応変な対応と工夫によってほぼすべての研修を実施することができました。運営は新しいチャレンジの連続で、うまくいかないこともありましたが、常にアップデートを心がけ、その時最善と思われる研修を提供しようと試みて参りました。しかしながら、受講者にとっては十分でないものもあつたのではないかと振り返ります。

昨年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が出されました。この答申の中で、2020年代を通じて実現すべき「教職員の姿」が、「学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている」と示されています。ここから倉敷教育センター主催の研修には、先生方に学ぶ機会を提供するという役割のほかに、学び続ける意識を高めるという役割も大きいと考えます。本年7月には教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部が改正され、教育免許更新制が発展的に解消される見込みです。今後は教員ごとの

研

修等に関する記録を作成することが求められるようになり、ますますその役割は大きくなると思われま

倉敷教育センターも変化を前向きにとらえ、先生方の学びを支援する伴走者となれるよう今後とも努力してまいりますので、御支援・御協力をいただきますようお願い申し上げます。



☆ 令和3年度 全研修講座が終了しました ☆

中堅教諭資質向上研修 最終回

「特定課題研究発表会」

特定課題研究発表会では、中堅研受講者がそれぞれのテーマで1年間研究実践を重ねた成果を発表しました。発表内容は、教科指導、学級経営、特別支援教育、生徒指導、ICT活用等、多岐にわたっていますが、どの発表にも共通して「子どもたちにこんな力を付けたい」という熱い思いがありました。今年度は3日間の開催（うち2日は遠隔研修）の中で98名の受講者が発表し、互いの発表を聴き合い、真剣に学び合う様子が見られました。また、3年目研修の受講者は、自らの課題や研究に資するようにと発表会に参加し、熱心に質問をしていました。校長先生や来年度中堅研を受講予定の先生も聴講しています。中堅研受講者は、この研修をステップアップの機会とし、今後より一層の自己研さんと、ミドルリーダーとしての飛躍が期待されているところです。



【参加された校長先生から】

コロナ禍で研究会等への参加が難しく、他の学校の先生方の取組を知ることができない中で、この発表会の開催の意義はとても大きかったのではないかと思います。中堅研の受講者は、学校の中でミドルリーダーとしての活躍が期待されます。今までよりも広い視野をもち、学年経営・学校経営の核となれるよう、さらなる努力を積み重ねてほしいと願っています。

【中堅研受講者のアンケートから】

特定課題研究は、今の自分を知るよい機会となりました。実態把握や結果の分析など、研究の仕方の第一歩を知ることができました。課題が多く残りましたが、これからの指導につなげ、さらに高めていきたい、いかなければならないと感じています。中堅教諭として、若手にも伝え広げて、共に成長していきたいです。

3年目研修 最終回

実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。

【受講者のアンケートから】

- ・ 私自身が悩んでいたことに対して相談できたり、アドバイスをいただいたりすることができた場となり、大変勉強になりました。研究で得た学びをここで終えるのではなく、引き続き深めていくと共に、他の学習にもつなげていきたいです。
- ・ 同期の研究報告を聞いて、たくさんの学びを得ることができました。これからも自分で工夫したり、先輩に学んだりしながら教師としての力を伸ばしていきたいです。
- ・ 実践発表を通して、生徒の将来に必要な力を身に付けさせるために、今の自分に満足してはいけなと感じました。今後も研究を深め、学び続ける教師でありたいです。



令和3年度受講者数

(延べ人数) 合計 5,249 名

1 初任者研修(新規採用学校栄養職員を含む)	1,302名	14 幼児教育研修	490名
2 2年目研修	281名	15 学校事務職員研修会	101名
3 3年目研修	312名	16 学校事務職員スキルアップ研修	105名
4 中堅教諭資質向上研修	958名	17 新規採用学校栄養職員研修	1名
5 16年目研修	159名	18 教科教育基礎研修	154名
6 新任教務主任研修	101名	19 特別支援教育研修	126名
7 特別支援教育新任担当教員研修	194名	20 授業ユニバーサルデザイン(UD)研修	92名
8 特別支援教育コーディネーター研修	148名	21 特別支援学級スキルアップ研修	65名
9 通級指導教室担当教員研修	59名	22 発達検査研修【WISC-IV検査】	中止
10 生活支援員研修	47名	23 学校カウンセリング研修	22名
11 新任講師研修	78名	24 子どもの発達を考える会	166名
12 2年目・3年目講師研修	104名	25 生徒指導研修	128名
13 幼稚園助教諭研修	10名	26 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修	46名

初任者研修最終回 記念講演

「『“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり』の実現に向けて
—大原美術館ができること—」

公益財団法人 大原美術館 理事長 大原 あかね



倉敷市教育大綱「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」について考え、倉敷市で教員人生を歩んでいくことへの意欲を高めることを目的に、大原美術館と市内小中学校初任者研修受講者をオンラインでつなぎ、記念講演を開催しました。

講師の大原様は、倉敷紡績創業家である大原家の10代目にあたり、現在、大原美術館理事長、倉敷市教育委員に就任され、

文化と教育に深く携わっていらっしゃいます。歴史と文化が息づくまち倉敷で大原家が進めてこられたまちづくりと、倉敷の未来をつくる子どもたちに期待する力について御講演いただきました。

【研修のキーワード】

From Kurashiki, 誇り, 未来,
みんなのマイミュージアム,
「100人いたら100人分の正解がある」, 歴史と文化,
持続可能なまちづくり



<受講者からのアンケート>

- 「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」の基本理念を大切にしながら、心豊かな子どもたちを育てていきたいです。倉敷の未来を担う子どもたちのために、地域の資源を活用する視点をもつことが大切だと思いました。教師が倉敷のことを知って、社会科の学習や総合的な学習の時間に生かせるようにしたいです。御講演を聞いて、倉敷のことがもっと知りたくなりました。
- 「倉敷は若者を支援してきたまち」というお話が印象に残りました。倉敷の歴史の中で、若い人たちが倉敷の未来を考え、それを周りの人が支えてきたように、私たち教師が未来ある子どもたちをしっかりと支えていかなければいけないと感じました。
- どの地域にも先人たちの努力や苦勞があって、今があります。子どもたちが地域の歴史を学ぶことを通して、未来のために何ができるかを考えていく教育をすることが学校の使命であると思います。そして、社会に開かれた教育課程実現のために、まず教師が地域を知ろうとすることが大切だと思いました。
- 倉敷で教師となって1年が経ちます。社会科等で倉敷について子どもたちとともに学ぶ中で、倉敷を誇りに思う気持ちが私の中にも育ってきたように感じています。先人が築いてきた歴史と文化、倉敷のよさを伝え、子どもたちが倉敷を誇りに思い、心豊かに成長していけるよう工夫をしていきたいと思っています。
- 「倉敷の役に立ちたい」という思いを実現するために、大原美術館が様々な取組や工夫をされてきたことを知りました。私も「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」を実現するためにどうすればよいかを考え、学び続ける教員人生を歩んでいこうと強く思いました。
- 「100人いたら100人分の正解がある」という講師の先生の言葉を聞いて、自分の感じ方や考えを大切にすること、そして、互いの感じ方や考えの違いを認め合うことを子どもたちに教えていきたいと思いました。子どもたちが自信をもって自分の考えを言える授業づくり、学級の雰囲気づくりをこれから目指してしていきたいです。

倉敷ふれあい教室めぐり

☆ 豊かな自然と歴史、
文化に囲まれて・・・

☆☆ 真備教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室真備教室は、真備保健福祉会館3階にあります。山に囲まれた緑豊かな環境です。ゆったりとした中で、四季を感じながらいろいろな活動をして過ごしています。

午前中は自分で決めたスタディに取り組み、その後、工夫・協力してなかよし活動を楽しんでいます。

創作活動では、ステンドグラス風飾り、草木染め、うちわ、多肉テラリウム、猫クリップなどを作りました。

科学実験では、うがい薬でビタミンCを調べたり、塩と洗濯のりでスーパーボールを作ったりしました。科学工作では、万華鏡を作りました。

スポーツでは、教室で卓球をしたり、ニュースポーツの「スローイングビンゴ」をしたりして体を動かし、楽しんでいます。

また、月に一度は「奉仕活動」として、真備駅周辺のゴミ拾いや、保健福祉会館の階段やベランダを清掃して気持ちのよい汗をかいています。



その他にも、散策でまきび記念館に行きました。展示してある吉備真備公に関する資料を読みました。教室から一步出て、普段見ることができないものを見たり、ふれることができないものに触れたりすることで、有意義な時間となりました。

真備教室では、日々の活動を通して仲間と協力しながら、元気よく、楽しんだり、挑戦したりして、「感動」と「希望」がもてるように過ごしています。

おっ!? そうだ!

教育センターの **教科書展示室** に



寄ってみよう!



研究集録を読みたい!

教科書を比べてみたい!

次の物を展示しています。

- ・ 各発行者の教科用図書（教科書）
- ・ 倉敷市内の小、中、特別支援学校の**研究集録**
- ・ 研究団体の**研究集録**（岡山県や他市の教育センター、大学等）
- ・ **教育に関する雑誌・図書**
（「教育時報」「実践障害児教育」「学校教育相談」等）
- ・ 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等



教育センター
事務室の隣だよ!



☆ **1か月まで** 貸し出すことができます。（教科用図書、研究収録等は閲覧のみのものもあります。また、貸出しができない期間もあります。）

☆ 開館時間は、**月曜日～土曜日の9時から17時15分**です。（日曜日と祝日は閉館日です。）

☆ 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）はライフパークの休館日ですが、教育センターは開館しています。入口の御案内をしますのので、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

☆ **本（ほしぼん）**を知っていますか?

特別支援学級等の指導の参考にも!

特別支援学校では、小・中・高等学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「☆本（ほしぼん）」と呼ばれる教科書を作成しています。小学部用には「こくご」「さんすう」「おんがく」、中学部用には「国語」「数学」「音楽」があります。倉敷教育センターで貸し出しが可能です!

